

格子のある風景

うなぎの寝床 "に" 建つ町家



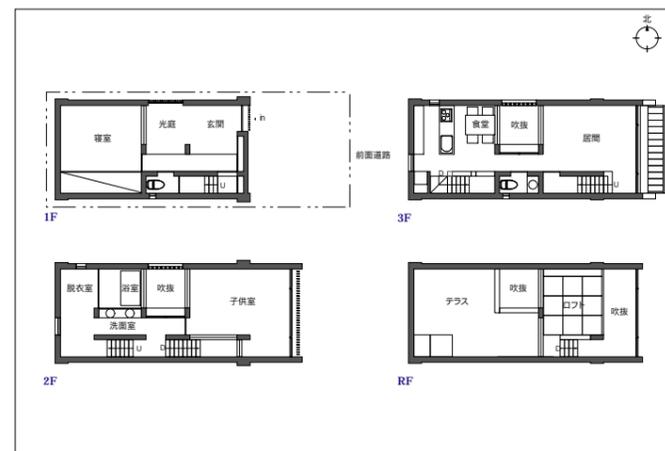
うなぎの寝床
-- 建築家の自邸 --

敷地は、南北に細長い京都の典型的な "うなぎの寝床" です。計画にあたって最も重視した点は、完全に近隣建物とのプライバシーを守りながら、狭小空間を最大限自然に開放されたものとし、広がりのある豊かな空間とすることです。アプローチから建物内部に入ると、京都の伝統的な静粛さを感じる自然が凝縮された豊かな空間に出会う。そこは "とき" の宝庫である。コンクリートに突き刺さる光、ガラスに反射する光、風と共に乱舞する雪など.....四季折々の表情は、人に活力を与えてくれる。

外部階段を昇るにつれ、空へとつながる空間の連鎖は、しだいに開放的になり、さらに広がりを増幅していく。また、南に配した内部階段と各部屋を結ぶことで、外部空間と内部空間の境界が、あいまいなものになり自然を豊かに取り込んで一体化できる。

中庭の吹抜に面して向かい合わせに窓を配することにより、絶えず外部空間は自然と融和でき、壁面で視線を遮断されないことから、機能的には独立した各部屋が有機的なつながりを帯びはしめる。外観には、格子をつけることでコンクリートの無機質さに和らいだ表情をつくり出して、京都という地域性を認識できるようにしました。

1999	第1種低層住居地域 準防火地域	敷地面積 110.00㎡
	遠景デザイン保全区域	建築面積 56.00㎡ 延床面積 127.00㎡
	鉄筋コンクリート造 地上3階建て	敷地形状 間口 4500 × 奥行 23000



蛤御門の家
日本建築家協会優秀建築選 2005

敷地から東にのびる路地に、京都御所の乾御門がひっそりと佇んでいて、この伝統的な情景を建物にとり入れられないか、と最初に思いました。そこで、建物内部のどこからでも、この情景を見渡すことができるように、前面を大きく開放して建物の中央に、一坪のガラスで囲われた光庭を作りました。一坪のガラスフィルターを通して入ってくる自然(太陽、雨、風)が、家族にいきいきとした生命力を与えてくれ、映りこむ外部の情景も、住宅をさらに魅力的なものにしています。外観は、伝統的な意匠である縦格子と庇、うだつを、コンクリート打ち放しの外壁と調和させて、モダンであり、和を意識できる建物を作りました。

2005	第2種住居地域 準防火地域	敷地面積 72.98㎡
	近景デザイン保全区域 旧市街地型美観区域	建築面積 43.2㎡ 延床面積 131.39㎡
	鉄筋コンクリート造 地上3階建て	敷地形状 間口 5300 × 奥行 14000

